

令和元年8月の前線に伴う大雨への派遣

- 九州地方整備局をはじめ、四国、中国、近畿、中部、北陸、関東、東北地整等から派遣したTEC-FORCE(8/26~9/20のべ1,711人・日)が、佐賀県と福岡県を中心に5県12市4町の自治体において被災地支援活動を実施
- 被害全容を迅速に把握するため、防災ヘリ「はるかぜ号」、「愛らんど号」、「きんき号」の3機体制で上空調査を実施
- 自治体所管施設の被災状況を調査するため、河川、砂防、道路の被災状況調査班を全国から広域派遣
- 約6,900haの範囲で浸水した六角川水系に、最大50台の排水ポンプ車が全国から集結、孤立した病院や住宅を早期に解消
- 流出した油の拡散を防止するため、オイルフェンスを設置し、建設業者や関係機関と一体となって油除去作業を実施



順天堂病院周辺の浸水状況
(佐賀県大町町)



ドローンによるぼた山公園の
土砂崩れ状況調査
(佐賀県大町町)



流出した油を回収するため
側溝清掃車を現地に派遣
(佐賀県大町町)



大町町、佐賀県、自衛隊、九州地方整備
局合同の現地本部連絡会議
(佐賀県大町町)



崩壊箇所の流木量調査
(佐賀県佐賀市)



土砂崩れに対する
自治体への技術的助言
(佐賀県大町町)



孤立した病院や住宅の早期解消に向け
24時間体制で緊急排水を実施
(佐賀県大町町)



協力企業と連携し流出した
油の除去作業を実施
(佐賀県大町町)